

令和 5 年 6 月 4 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02413

研究課題名（和文）インドシナ半島における古代国家の形成：ベトナム・チャーキュウ遺跡からのアプローチ

研究課題名（英文）Early state formation in the Indochina peninsula: an approach from the Tra Kieu site in Vietnam.

研究代表者

山形 真理子（Yamagata, Mariko）

立教大学・文学部・特任教授

研究者番号：90409582

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はインドシナ半島の古代国家・林邑（チャンパ）の王都とされるチャーキュウ遺跡を主な調査対象とする。瓦や土器などの遺物の変遷に加え、放射性炭素年代測定の結果を勘案して考古編年を構築し、遺跡の存続年代を明らかにし、林邑の他の遺跡との関係を追究した。扶南の外港とされるオケオ遺跡の年代観と相互比較し、林邑と扶南の両国を包摂する編年体系を提示した。地理学と植物考古学の調査が遺跡周辺の古環境に迫る手がかりをもたらし、ミーソン遺跡では新出資料の精査と考古地磁気学調査が世界遺産の学術研究に寄与している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究がチャーキュウ遺跡で考古編年の体系を構築し、それによってベトナム中部各地の遺跡の年代研究に貢献し、かつ、オケオ文化とのクロスデイティングを行い、林邑と扶南を包摂する編年研究に踏み出した学術的意義は大きい。また、中国起源の瓦の在地化など、土着の文化の視点から林邑の歴史を再構築することで、東南アジアの古代史研究を前進させた。ベトナムの考古学に新たな研究分野と方法を導入した意義も大きい。現地研究機関・行政機関と共同で調査を進め、その成果を彼らの活動を通して地域社会に還元している。

研究成果の概要（英文）：This research focuses on the Tra Kieu site in central Vietnam, generally identified with the old capital of Linyi (Champa), one of the earliest kingdoms in Indochina Peninsula. Based on the transition of artifacts including tiles and pottery, and on the radiocarbon dating results, the chronological framework of the Tra Kieu site has been established. It has led to clarifying the duration of the site, and to investigating the relations between Tra Kieu and other citadels of Linyi. Comparative studies between Tra Kieu and Oc Eo, an outer port of the ancient kingdom of Funan, made it possible to present general chronology encompassing both Linyi and Funan. Geographical and archaeobotanical studies has provided clues for considering the ancient environment surrounding Tra Kieu, and research on the new style of tile, as well as the archaeomagnetic survey, has contributed to advancement of the scientific research on the My Son World Heritage site.

研究分野：考古学

キーワード：考古学 ベトナム チャーキュウ遺跡 ミーソン遺跡 オケオ遺跡 林邑 瓦 編年

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

2017年に本研究を開始した当初、ベトナムの考古学界ではチャンパ研究への関心が高まっていた。2010年代に入ってハノイ国家大学、ベトナム都城研究センター、本研究の研究代表者を中心とする日越合同チームなどがベトナム中部各地に残るチャンパの都城址を発掘した。その成果が公表されるにつれて、それぞれの遺構・遺物の解釈や年代観に齟齬が生じていたからである。研究代表者は林邑(チャンパ)王都に比定されるチャーキュウ遺跡の発掘調査を継続してきた結果、都城中心部に後2世紀には中国式本瓦葺の建築が存在したこと、「インド化された」国というイメージとは裏腹に、初期的林邑に中国の強い影響が及んだことを明らかにした。その成果は林邑(後2世紀末～8世紀半ば)の歴史像に変革をもたらしたが、上記の齟齬を解決するためにはチャーキュウ遺跡で編年体系を確立し、林邑の考古学研究の基軸とする必要があった。

一方、メコンデルタを中心に勃興した古代国家・扶南に関する考古学調査も大きく前進しようとしていた。ベトナム政府が、扶南外港に比定されるオケオ遺跡の世界遺産登録を目指す方針を打ち出したため、2017年、社会科学アカデミーがオケオ遺跡とその周辺で大規模な調査プロジェクトを開始した。本研究のベトナム側共同研究機関である南部社会科学院が発掘を担当することになったことを受けて、本研究のチームが林邑と扶南という二つの古代国家を関連付ける調査を推進できる条件が整った。

2. 研究の目的

本研究はインドシナ半島における古代国家の形成過程を、考古学と隣接科学との協働をふまえて解明しようとするものである。研究対象とするのは後1～2世紀に勃興した「林邑」と「扶南」であり、いずれも中国の歴史書に登場する一方で、20世紀の仏人東洋学者によって東南アジアの「インド化」した国とみなされた。本研究の主たる調査対象はベトナム中部・クアンナム省チャーキュウ遺跡で、林邑(チャンパ)の王都に比定される都城址である(図1)。チャーキュウでは後6世紀以降の考古学的状況が不明瞭であったが、同じ水系に位置するチャンパの聖地ミーソン遺跡(世界遺産「ミーソン聖域」)であらたに出土した資料との比較研究が解明への糸口となることを認識した。林邑王都の編年体系を構築し、トゥーボン川水系の在地文化のなかに中国やインドに由来する外来の文物が受容されていく過程を追究すると同時に、他の水系の拠点的都城との比較研究を推進する。さらに、南部メコンデルタのオケオ遺跡に注目し、チャーキュウ遺跡とオケオ遺跡から得られる考古学的知見とその比較研究をもとに、林邑と扶南を包摂する考古編年の構築を目指す。編年研究に加え、建築遺構の精査、植物圧痕分析、地形分析、考古地磁気学的分析を行い、古代国家の実像を多角的に読み解くことを目指す。

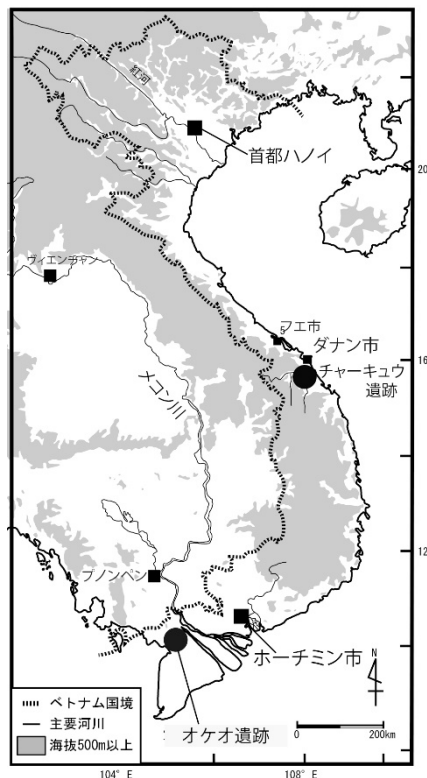


図1: ベトナム・チャーキュウ遺跡とオケオ遺跡の位置

3. 研究の方法

本研究の方法は以下の通りである。

(1) チャーキュウ遺跡出土瓦の調査：クアンナム省ズイスエン県サーフィン文化・チャンパ博物館の収蔵資料とチャーキュウ教会コレクションの瓦について悉皆調査（観察と図化、写真撮影一部の資料について3D計測）を行う。

(2) ミーソン遺跡出土瓦の調査：ミーソン遺跡 E1 祠堂周辺から発見される特異な形態と紋様の瓦を精査する。

(3) チャーキュウ遺跡の編年構築と他の都城遺跡との比較：発掘調査の層位的所見と遺物研究、ミーソン遺跡出土資料との関連、放射性炭素測定年代などを考慮しながら、後1世紀から後8世紀に至る遺跡の編年体系を構築する。それを基軸として、ハノイ国家大学が調査したタインロイ遺跡（フエ市）、都城研究センターが発掘したタインチャー遺跡（ビンディン省）、ホーチミン市国家大学が発掘したタインホー遺跡（フーイエン省）との比較研究を行う。

(4) チャーキュウ遺跡とオケオ遺跡の比較：両遺跡で共通する土器類型に注目し、型式学的な比較と年代のクロスチェックを行う。その上で、林邑と扶南を包摂する編年体系を提起する。

(5) 木造建築遺構に関する調査：チャーキュウで出土している木造建築の基礎遺構と、ミーソン遺跡の初期の木造構築物とを比較し、林邑の木造建築の系譜を考える。

(6) 植物圧痕分析：レプリカ法を初めてベトナム考古学に導入する。土器表面に残された圧痕の凹部にシリコーン樹脂を流して型取りし、そのレプリカを走査電子顕微鏡（SEM）で観察する。

(7) 遺跡周辺の踏査（地形調査）と土壌堆積物調査：チャーキュウ遺跡周辺で土壌サンプルを採取し、分析資料とする。旧河道と遺跡との関係を探究するため、遺跡周辺の踏査と土層断面の精査を行う。

(8) 考古地磁気学調査：考古地磁気学を初めてベトナム考古学に導入する。ミーソン文化遺産管理委員会の協力を得てレンガをサンプリングし、事前分析として段階熱消磁測定、帯磁率測定、さらには考古地磁気強度実験を行う。

4. 研究成果

研究方法の項目に即して研究成果を述べる。

(1) チャーキュウ遺跡の瓦が中国式本瓦葺の瓦であること、後2世紀に出現したベトナム中部最古の瓦であること、瓦当文様の人面紋が江蘇省南京市などから出土する三国呉の瓦当文様に由来することなどが山形の研究によって既に明らかにされている。チャーキュウでは地元の私的コレクション（チャーキュウ教会コレクション）が良好な瓦資料を保持しているため、その悉皆調査を行った。私的コレクションは現時点で公開されていないが、地元のサーフィン文化・チャンパ博物館の資料に関する情報は公表を許可され、調査成果の一部を日本語と英語で発表した（YAMAGATA, M. 2018 Ancient eaves tiles with human face decoration: a comparative study between Vietnam and Nanjing. A paper presented at The Eighth Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology, Nanjing University; 山形真理子 2021「林邑の人面紋瓦当—チャーキュウ遺跡とミーソン遺跡の瓦をめぐる基礎的考察」菊池誠一先生・坂井隆先生退職記念論文集編集委員会編『港市・交流・陶磁器—東南アジア考古学研究—』雄山閣）。

(2) ミーソン遺跡 E1 祠堂の祭壇や彫刻はチャンパ美術の傑作としてダナン市チャム彫刻美術館に展示されている。建築史・美術史の研究から後8世紀前半に位置付けられる E1 で、中国式本瓦葺ではないユニークな瓦が出土している。瓦当文様は人面紋であるが瓦の形と葺き方が異なる。ミーソン文化遺産管理委員会において資料の精査を行ったが、国内外の複数の機関が関わって発掘された未発表資料であるため、まだ詳細を公表できない。トゥーボン川流域でチャーキュウとは異質の瓦が8世紀前半に使用されたことから、それ以前に、チャーキュウの瓦とそれ

に伴う遺物アセンブリッジが姿を消したことが示唆される。中国の史料によれば 8 世紀半ばに林邑の国名が「環王」に変わった、その画期と重なる重要な資料である。

(3) 林邑では川筋ごとに地域政体が成長した。それぞれの拠点となる都城遺跡からは、チャーキュウ遺跡と同様に中国式本瓦葺の丸瓦・平瓦と、人面紋装飾をもつ軒丸瓦が大量に出土する。瓦の製作技術と瓦当文様の比較研究から、都城間の関係を探ることが可能である。ベトナム中部で最も早く瓦が出現するのはチャーキュウ遺跡を擁するトゥーボン川流域であり、後 2 世紀には中国の瓦製作技術が移転され、その技術が在地化する過程で 3 世紀に林邑各地の都城に拡散した。人面紋瓦当を含む林邑独特の瓦の広がり政治的テリトリーを反映するという見解を英文で発表し、ベトナム内外の研究者の関心を集めた (YAMAGATA, M. et al. 2019 The development of regional centres in Champa, viewed from recent archaeological advances in central Vietnam. Griffiths, A. et al. eds. *Champa: Territories and Networks of a Southeast Asian Kingdom*. EFEO, Paris.)。

	Central Vietnam	Southern Vietnam
3rd century BC	203BC-111BC 南越国	鉄器時代の「ドンナイ文化」
2nd century BC	111BC 前漢九郡設置(現在のベトナムの地に交趾郡・九真郡・日南郡) サーフィン文化 前4世紀～後1世紀	プレ・オケオ Giong Ca Vo/ソンカーヴォ, Giong Phet/ゾンフェ ピーズ
1st century BC	inh Yen 2, Go Dua/ゴーズア, Hau Xa/ハウサー, An Bang/アンバン, Lai Nghi/ライギ 前漢鏡, 五銖銭, 環頭刀子 ピーズ	Phu Chanh/フーチャイン, Giong Ca Vo, Giong Phet
1st century AD	40 微姉妹の起義 43 馬援、漢の南境、西屠国との境に銅柱 Sa Huynh culture declined	前漢鏡 フーチャイン, Giong Lon/ロン, Go O Chua/コーオーチュア オケオ早期
2nd century AD	100 日南象林蛮夷反乱 137-138 日南象林徼外蛮夷反乱 その後144,157,178-181, 184にも反乱の記事 166 大秦国、遣使 192ころ 日南郡象林界で反乱の結果、林邑建国 チャーキュウ I 後2世紀中心	Hoa Diem ホアジエム 墓棺墓 五銖銭 ピーズ 後漢鏡 2th-6th century Lung Lon settlement 連河沿いの居住
3rd century AD	220ころ 扶南の王族蘇物、天竺往來 225-230ころ 朱応と康泰、扶南に派遣される 226-31ころ 林邑・扶南・堂明、呉に遣使 229 建業(南京)遷都 243 扶南王范旆、呉に遣使して美人と方物を献じる 248 林邑、交州と交戦、区粟城を落とす 268, 280 林邑、晋に遣使 3世紀末 林邑王范熊	
4th century AD	331 林邑王范逸没、336 范文が王位篡奪 340林邑が馴象を献じる 范文、周辺諸国を攻めて服属させる 347 范文、日南郡を攻めて太守を殺害 349 范文敗走 353 林邑王范弘、交州刺史阮敷に日南で敗れる 358-359 交州刺史温放之の林邑遠征 372, 374, 377, 382 林邑、東晋に遣使 372以降 林邑が毎年のように北進 399 林邑王范胡達が日南・九真・交趾を攻める	3世紀-7世紀 クアンガイ省 コーレイ上層 4.5世紀〜フエ市タインロイ 4世紀-6世紀 ビンディン省 タインチャー-建築遺構1 4th-6th Cat Tien カッティエン
5th century AD	413 范胡達、交趾太守杜慈度に敗れる 414, 417林邑、東晋に遣使、馴象と白鬘謁 421 林邑王范陽邁、宋に遣使 424〜433 范陽邁しきりに遣使と侵攻 446 (宋)交州刺史檀和之の林邑遠征、区粟城と首都典冲陥落 455 林邑長史范龍跋を揚武將軍とする 455, 458, 472 林邑王、宋に遣使 458 林邑王范神成遣使して金銀器、香油などを献じる (宋末)扶南王范陳如のとき天竺道人那迦仙が広州より帰途中遭難、林邑が財宝掠奪、那迦仙が扶南に中国「聖主」への遣使を説く 5世紀末 范当根純(扶南王子)ないし扶南の逃亡奴隷嶋酬羅が林邑王位篡奪 491 范当根純遣使貢献 持節、都督緑海諸軍事、安南將軍、林邑王 491ころ 范当根純に胤奪された王位を范諸農が復す 492 范諸農 持節、都督緑海諸軍事、安南將軍(495には鎮南將軍に進む)、林邑王 498ころ 范諸農みずから中国へ朝貢する途中崖に遭って溺死 503 扶南、珊瑚の仏像を献じる 502,510, 512, 514,526,527,530,534 林邑 梁に遣使	4世紀末〜5世紀 ミーソンにBhadravarman(范胡達?)王碑文
6th century AD	5世紀〜6世紀 林邑王しばしば中国の冊封を受ける 527 林邑王高式勝鑑遣使、持節、督緑海諸軍事、安南將軍、林邑王 530 林邑王高式律陸羅跋遣使貢献、持節、督緑海諸軍事、安南將軍、林邑王 546 扶南が梁武帝への經典を持たせた拘那羅陀が広州に至る 545-546ころ 真臘王(トララセーナの祖父)が扶南併合 543 林邑王高式律陸羅跋摩(ク・シュリー・ルドラヴァルマン)北進して九徳郡に攻め込み李貴と交戦するも敗走 6世紀末ないし7世紀初頭 ルドラヴァルマンの子シャンブヴァルマン(范梵志)碑文にはじめてチャンパ国号	6世紀-7世紀 チャーキュウのYaksaヤクシヤ像
8th century AD	653 父が罪を犯し真臘に逃げていた王族諸葛地を大臣が迎え入れ即位 ヴィクラヴァルマン1世(Prakashadharm Vikrantavarman)、母は真臘王イーシャナヴァルマンの娘 657 真臘 ジャヤヴァルマン一世(650/657-681) 691ころ 義浄執筆『大唐西域求法高僧伝』『南海寄帰内伝』に扶南の記載 705 水真臘と陸真臘に分かれる 749 林邑最後の朝貢記録 756ころ 林邑が国号を「環王」に変更 793 環王国犀牛を献上	657-687ころ チャーキュウのPrakashadharm 碑文がValmikiのための寺院修復に言及 Prakashadharmがミーソンで建設したシヴァ信仰の寺院はMy Son E1か 8世紀初頭、My Son E1のpedestal ミーソンE1の人面紋瓦 8世紀後半〜 Trien Tranhチエンチャイン-Chiem Son Tayチエムソンタイ
9th century AD	875ころ〜 Dong Duongドンズオン	オケオ後期 8th century Go Sau Thuan transitional stage GST移行期建築 9th century Go Sau Thuan Late stage GST後期建築

図2：鉄器時代から初期歴史時代の考古編年（前3世紀～後8世紀）：林邑（チャーキュウ遺跡）と扶南（オケオ遺跡）の対比を中心に（山形眞理子作成）

(4) 扶南の考古文化とされるオケオ文化との関係において、クンディ(Kendis)やストーブなどの土器群の共通性に注目した。それらはオケオ文化から林邑へと伝わった器種で、とくにインド由来のクンディが注目される。チャーキュウ遺跡とオケオ遺跡との比較研究をもとに、紀元前後から後8世紀に至る考古編年を構築し(図2)、更新を続けている(山形真理子2021「考古編年からみた林邑:ベトナム中部における古代国家の形成」2021年度東南アジア考古学会研究大会「扶南・林邑・真臘:編年の比較」研究発表)。

(5) ミーソン遺跡では今世紀に入ってからイタリア、ベトナム、インドのチームがそれぞれ建築遺構の修復に先立つ発掘を行った。本研究チームがその出土遺物である、ミーソンE1祠堂で木造構築物の屋根に葺かれた瓦に注目したことが、チャーキュウからミーソンにつながる木造遺構の系譜について考察する契機となった(YAMAGATA, M. and TRAN K.P. 2022 The ancient wooden structure of Champa viewed from archaeological and architectural evidence 「考古学的及び建築学的知見から見たチャンパの古代木造建築」. Tomoda et al. eds. *Exploring the Ancient Wooden Architecture in Mainland Southeast Asia*. 東京文化財研究所)。

(6) まず、初期の稲作と関連するロンアン省アンソン遺跡の土器をサンプルとして分析を行い、その結果を発表した(中山誠二・山形真理子・Nguyen Khanh Trung Kien 2019「ベトナム南部・アンソン遺跡における新石器時代の種子圧痕分析」『アジア地域研究』2)。続いてサーフィン文化の遺跡数カ所とチャーキュウ遺跡の計6遺跡から74点の圧痕を採取したが、植物起源のものと認識されたのは12点にとどまった。同定された植物は、イネ(*Oryza sativa*)8点、イネ近似種(cf. *Oryza sativa*)1点、不明種3点である。イネ籾には細長い長粒のサンプルがあり、インディカタイプのイネと考えられる点は注目される。

(7) チャーキュウ遺跡とその周辺の踏査はコロナ禍の期間を除き、毎年行っている。地理学の見地からは、流路の変更を繰り返したトゥーボン川と遺跡立地の関係が課題となった。遺跡はトゥーボン川下流右岸の、沖積低地よりは一段高い段丘状の土地に立地する。氾濫原との比高は数メートル以内で、長方形の都城の周囲に城壁(土塁)が認められるが、北辺には城壁はなく水路に接している。この水路はトゥーボン川系統の旧河道を流れ、旧河道と都城の比高は約2~3mである。水路の水面は旧河道面より2m程低いが、その側面で洪水堆積物と思われる粗粒砂が観察された。チャーキュウ遺跡には洪水の影響はほとんど認められないと思われる一方、遺跡に隣接する旧河道は洪水堆積物で充填されており、トゥーボン川の河道が放棄された可能性がある。

(8) 本研究の3年目から考古地磁気学の専門家が研究協力者として参加した。2022年夏に南部社会科学院とミーソン文化遺産管理委員会の協力を得てミーソン遺跡の4棟の建築遺構を選んでレンガを採取した。事前分析として実施した段階熱消磁測定の結果、レンガがミーソンへ運搬されて以降現在に至るまで、火災等による被熱を経験していないこと。帯磁率測定の結果、レンガの胎土もしくは焼成技術が建物によって異なる可能性があること。考古地磁気強度実験の結果を建築・美術様式編年の順序で並べると、日本のデータセットと概ね調和的であり、建築・美術様式からの編年の妥当性が支持されること。以上のような重要な知見が得られ、今後、考古地磁気データセットから作成された永年変化曲線(古地磁気モデル)を利用することにより、考古学的手法とは別に遺構・遺物の年代に関する議論が可能となる方向性が示された。

上記(1)~(8)の成果をもとに、林邑と扶南の出現と形成に関する概説を日本国内で発表している(山形真理子2022「林邑・扶南・チャンパ 東南アジアの古代国家はいかに形成されたか」吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学 アジア・アフリカへの問い158』ミネルヴァ書房;山形真理子2023「扶南と林邑(チャンパ)」-ベトナム南部と中部の初期国家」岩井美佐紀編著『現代ベトナムを知るための63章【第3版】』明石書店)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 鈴木朋美	4. 巻 39
2. 論文標題 ベトナム中部・サーフィン文化土器の形式分類と型式変化：ピンディン省・クアンガイ省出土土器を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東南アジア考古学	6. 最初と最後の頁 19-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保純子	4. 巻 723
2. 論文標題 平野の地形と遺跡立地 変化する環境と人々の活動	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 3-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山誠二、山形真理子、グエン・カイン・チュン・キエン	4. 巻 2
2. 論文標題 ベトナム南部・アンソンAn Son遺跡における新石器時代の種子圧痕分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア地域研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 山形真理子	4. 巻 1
2. 論文標題 ベトナム中部出土の漢系遺物に関する考察：チャーキュウ遺跡の調査成果を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア地域研究	6. 最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Naoko Nagumo, Sumiko Kubo, Toshihiko Sugai, Shinji Egashira	4. 巻 296
2. 論文標題 Sediment accumulation owing to backwater effect in the lower reach of the Stung Sen River, Cambodia.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Geomorphology	6. 最初と最後の頁 182-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sumiko KUBO and Naoko NAGUMO	4. 巻 66
2. 論文標題 Geographical Survey of Sambor Prei Kuk - A World Heritage Archaeological Site in Cambodia -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 早稲田大学教育・総合科学学術院学術研究 (人文科学・社会科学編)	6. 最初と最後の頁 153-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Do Truong Giang, Suzuki Tomomi, Nguyen Van Quang, Yamagata Mariko	4. 巻 5
2. 論文標題 Champa Citadels: An Archaeological and Historical Study	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Asian Review of World Histories	6. 最初と最後の頁 70 ~ 105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/22879811-12340006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 山形真理子
2. 発表標題 オケオ遺跡の編年：ベトナム考古学における近年の研究
3. 学会等名 第269回東南アジア考古学会例会「ベトナム南部・オケオ遺跡をめぐる研究動向：「扶南外港」の実態解明を目指して」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 船引彩子・久保純子
2. 発表標題 オケオ遺跡における古代運河の堆積物とその年代
3. 学会等名 第269回東南アジア考古学会例会「ベトナム南部・オケオ遺跡をめぐる研究動向：「扶南外港」の実態解明を目指して」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mariko Yamagata
2. 発表標題 Localization of the Kalanay Pottery Complex at Hoa Diem, Tho Chu and Oc Eo in Vietnam: Examining the historical background from the 1st to 3rd century CE.
3. 学会等名 Maritime Exchange and Localization across the South China Sea, 500BC-500AD. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 YAMAGATA Mariko and Nguyen Kim Dung
2. 発表標題 Chronology of the Tra Kieu site, an old citadel of Champa: Focusing on excavated roof tiles.
3. 学会等名 The 21st Congress of the Indo-Pacific Prehistory Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 SUZUKI Tomomi and YAMAGATA Mariko
2. 発表標題 Re-examination of the Sa Huynh-Kalanay Pottery Tradition: Viewpoints from Vietnamese Archaeology.
3. 学会等名 The 21st Congress of the Indo-Pacific Prehistory Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mariko YAMAGATA
2. 発表標題 Ancient eaves tiles with human face decoration: a comparative study between Vietnam and Nanjing.
3. 学会等名 The Eighth Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 船引彩子, 久保純子, 南雲 直子, 山形真理子, Kien Nguyen
2. 発表標題 メコンデルタ, オケオ遺跡における古代運河の形成
3. 学会等名 日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山形真理子, Nguyen Khanh Trung Kien, 鐘ヶ江賢二, 深山絵実梨, 鈴木朋美, 依寛司
2. 発表標題 ベトナム中部・チャーキュウ遺跡の発掘調査成果 - 林邑都城における城壁の構築方法と年代に関する考察 -
3. 学会等名 日本考古学協会第83回総会研究発表
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mariko Yamagata
2. 発表標題 Some thoughts on Ancient Roof Tiles at Tra Kieu, Thanh Cha and Thanh Ho in Central Vietnam: chronology, diversity and interrelations.
3. 学会等名 Binh Dinh Ancient Ceramics - Vijaya Kingdom and its relationship with Thang Long Citadel (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山形真理子
2. 発表標題 チャーキュウ遺跡の編年：新出資料とオケオ遺跡との対比が提起する問題
3. 学会等名 東南アジア考古学会第274回例会「ベトナム中部トゥーボン川流域における鉄器時代サーフィン文化から林邑への変遷：チャーキュウ遺跡（林邑都城）を中心とした近年の調査動向をふまえた考察」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木朋美
2. 発表標題 サーフィン文化におけるトゥーボン川流域の地域性：他の川筋との比較をふまえて
3. 学会等名 東南アジア考古学会第274回例会「ベトナム中部トゥーボン川流域における鉄器時代サーフィン文化から林邑への変遷：チャーキュウ遺跡（林邑都城）を中心とした近年の調査動向をふまえた考察」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 久保純子
2. 発表標題 トゥーボン川下流平野の地形と遺跡立地
3. 学会等名 東南アジア考古学会第274回例会「ベトナム中部トゥーボン川流域における鉄器時代サーフィン文化から林邑への変遷：チャーキュウ遺跡（林邑都城）を中心とした近年の調査動向をふまえた考察」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中山誠二
2. 発表標題 ベトナム中・南部遺跡出土土器の植物圧痕分析 - サーフィン文化遺跡・チャーキュウ遺跡・オケオ遺跡 -
3. 学会等名 東南アジア考古学会第274回例会「ベトナム中部トゥーボン川流域における鉄器時代サーフィン文化から林邑への変遷：チャーキュウ遺跡（林邑都城）を中心とした近年の調査動向をふまえた考察」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山形真理子
2. 発表標題 南境の漢・六朝系瓦 - ベトナム北部・中部出土の古代瓦を再考する -
3. 学会等名 第7回国際遺跡研究セミナー（奈良文化財研究所）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山形真理子
2. 発表標題 ベトナム・サーフィン文化の埋葬儀礼と装身具
3. 学会等名 International Academic Conference “Use of Jar Coffin and Funeral Ritual in East Asia”, Naju National Research Institute of Cultural Heritage（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山形真理子
2. 発表標題 考古編年からみた林邑：ベトナム中部における古代国家の形成
3. 学会等名 2021年度東南アジア考古学会研究大会「扶南・林邑・真臘：編年の比較」
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 Arlo Griffiths, Andrew Hardy & Geoff Wade (eds) (YAMAGATA Mariko, Nguyen Kim Dung, Bui Chi Hoang)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 French School of the Far East	5. 総ページ数 435
3. 書名 Champa: Territories and Networks of a Southeast Asian Kingdom.	

1. 著者名 小林 秀司、星野 卓二、徳澤 啓一（山形真理子）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 330
3. 書名 新博物館園論	

1. 著者名 Karashima Noboru and Hirose Masashi (eds.) (YAMAGATA Mariko)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東洋文庫	5. 総ページ数 343
3. 書名 State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society	

1. 著者名 菊池誠一先生・坂井隆先生退職記念論文集編集委員会（山形真理子）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 344
3. 書名 港市・交流・陶磁器 - 東南アジア考古学研究	

1. 著者名 荒川 正晴、大黒 俊二、小川 幸司、木畑 洋一、富谷 至、中野 聡、永原 陽子、林 佳世子、弘末 雅士、安村 直己、吉澤 誠一郎（山形真理子）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 310
3. 書名 南アジアと東南アジア ~15世紀	

1. 著者名 Do Trung Giang, Dong Thanh Danh, Ba Minh Truyen (Do Trung Giang, Suzuki Tomomi, Nguyen Van Quang, Yamagata Mariko)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Nha Xuat ban Khoa hoc Xa hoi, MaiHaBooks	5. 総ページ数 527
3. 書名 Nhung van de lich su va van hoa Champa.	

1. 著者名 吉澤 誠一郎、石川 博樹、太田 淳、太田 信宏、小笠原 弘幸、宮宅 潔、四日市 康博（山形真理子）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 378
3. 書名 論点・東洋史学	

1. 著者名 岩井 美佐紀（山形真理子）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 440
3. 書名 現代ベトナムを知るための63章【第3版】	

1. 著者名 Tomoda, Masahiro, Ken KANAI and Erif Beuba VAR (Mariko YAMAGATA and TRAN Ky Phuong)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Tokyo National Research Institute for Cultural Properties (TOBUNKEN)	5. 総ページ数 209
3. 書名 Exploring the Ancient Wooden Architecture in Mainland Southeast Asia.	

1. 著者名 亀田修一、白石 純(山形真理子)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 248
3. 書名 講座 考古学と関連科学	

1. 著者名 徳澤 啓一、山形 真理子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 220
3. 書名 東南アジアの文化遺産とミュージアム	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鈴木 朋美 (Suzuki Tomomi) (00778673)	奈良県立橿原考古学研究所・調査部調査課・主任研究員 (84602)	
研究分担者	重枝 豊 (Shigeeda Yutaka) (30287586)	日本大学・理工学部・特任教授 (32665)	
研究分担者	中山 誠二 (Nakayama Seiji) (60574142)	帝京大学・付置研究所・教授 (32643)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	久保 純子 (Kubo Sumiko) (90275967)	早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授 (32689)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	グエン カイン チュン キエン (Nguyen Khanh Trung Kien)		
研究協力者	深山 絵実梨 (MIYAMA Emiri)		
研究協力者	北原 優 (Kitahara Yu)		
研究協力者	チャン キィ フォン (Tran Ky Phuong)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
ベトナム	ベトナム南部社会科学院	ミーソン文化遺産管理委員会	